

日台青年交流事業

交流協会では、日本と台湾との若者世代の交流促進のため様々な招聘・派遣事業を実施しています。平成24年9月2日から9月9日まで台湾で日本の人文社会科学研究（歴史・社会科学・経済・政治・外交・法学・商学・教育等）を学んでいる大学生20名を現代日本社会や文化に対する理解を一層深めるために広島、姫路、京都、神戸、大阪に招聘しました。

訪日前には、日本の政治、外交、社会情勢等について2日間の集中講義を行うとともに、日本では姫路獨協大学における日台の学生による意見交換、また、文化体験では、ホームステイ、茶道、着物等の日本の伝統文化を体験し短期間の日程ながらも多くのプログラムを通じ学術や文化・習慣に触れることが出来たようです。

今回招聘した20名のうち、男性2名女性5名の訪日報告書をご紹介します。

愛すべき日本

政治大学企業管理学科
方媿伶

まず私は交流協会が私をサマーキャンプに参加させてくれたことに感謝しなければなりません。一年間夢見ていた国に降り立った時、心の中で抱いていた幻想の日本はこの8日間で見聞した日本へとはっきりとしたものになりました。感動は言葉では表せられず、ただ日本の全てを貪欲に求めることでこの活動の参加に応えようと思います。

【経営方式】

まず日本・関西地域のコンビニを分析したいと思います。今回の旅行でファミリーマート、セブンイレブン、ローソンを訪れました。それらコンビニエンスストアの経営方式は大きく異なりました。

ファミリーマートの外見はとても明るく、店舗の設計もとてもモダンで、都市のモダニズムとその速い生活リズムを強調していました。ターゲッ

トの客層は恐らくサラリーマンです。セブンイレブンは日本では親しみやすい路線を走っていました。どの店舗でもセールを促すポップに満ちていて、それらは天井から地面にまで垂れ下がっていたり、冷蔵庫に貼られていたり、至る所にありました。しかし店内は人が歩くスペースはとても狭く、まるで雑貨店を見ているかのようです。客層の多くは付近の老人や仕事帰りのOL、たまたま通りかかったサラリーマンです。台湾でほぼ独占状態にあるセブンイレブンも温かみのある路線を走っていますが、空間は広く保たれ、現代的な設計は日台で全く異なるものでした。

そしてセブンイレブンの次にくるのがローソンです。ローソンの店舗は主に関西地区にあります。しかし広島、神戸、京都などの場所では繁華街の角地という一等地に店舗を構えています。店舗内は広く商品の種類も豊富で、郵便業務なども行っており、とても利用しやすい環境を整えています。更に多くのサービスを行うと発展する余地も大きくなり、もしかするとセブンイレブンを越えるかもしれません。消費者は主に若者や通勤客などの極一般的な人たちです。（私はこの店名を大前研一著作の『個人経済』の中で初めて見まし

た。当時はまだ日本を訪問したことはなく、本の中に登場する企業にはほとんどそのイメージがなかったために、読み進めるのが辛く感じましたが、今回の旅行を終えてそれらが具体化し、今後は日本の企業管理関連書籍を読む際にはとても大きな手助けとなるはずです。)

総合的に見ると、台湾のコンビニはベンチ等客をもてなす空間を作る店舗が少しずつ広がっており、付近の人々がベンチに座って食事をしたり、おしゃべりしたり、休んだり、仕事の話をする人までもいます。そうやって客数を増加させ、個人の消費額を上げようとしているのです。しかし日本・関西地区でのコンビニにはベンチのような座席はありませんでした。その理由は恐らく土地利用効率と顧客の習慣でしょう。一つは地価が高く、商品を置くスペースを確保することを第一としている、第二に日本人はコンビニを社交活動を行う場として選ばないのだと思います。ですから、日台でその設計が異なるのだと思います。

【都市比較】

日本の街にはどこにもその場所のキャラクターがあり、各々の街はその雰囲気や全く違います。

飛行機で最初に降り立った広島空港はとて小さく、それは広島の純朴さを表しているようでした。私たちはホテルで道を尋ねると、フロントのスタッフが親切にもパソコンで調べてくれて、更なるその店に電話をかけて私たちが知りたかった情報を聞いてくれました。距離感を感じさせない広島の人とはとても親切で、日本の好印象を私に残してくれました。

新幹線とともに私たちは西へ赴き、にぎやかな神戸に到着しました。駅の外にはゴミと吸い殻に溢れ、若者はグループを形成し、目つき悪く見知らぬ歩行者を睨んでいました。退勤するサラリーマンは急ぐように道路を横断し、カラオケの店員はサービス券を片手に至る場所で客引きを行って

いました。更にホームレスはバスの待ち合い椅子を占拠し、堂々と道ばたで眠っていました。興味があり客引きの多い通りに行きましたが、23時を過ぎても多くの人があり、タクシーは歓楽を求める客を乗せてきているようでした。光り輝く看板の下に立ち、酒池肉林の神戸の夜を体感した時、私は突然純朴で静かな広島が懐かしくなっていました。

数百年の歴史を持つ京都はやはりその評判通りでした。至る所に寺社や仏閣があり、それらは五重塔の高さを超えてはいけないという規定まであるそうで、そのためこの街の空の輪郭はとて和むような感覚を与えてくれます。京都の人同様に古都には悠久の気質があり、早くもなく遅くもなく適度な早さで私たちに「ゆっくりとこの街の美しさを見て行って下さい」と言われているような気がしました。江戸時代に建てられた町家に入り、畳や坪庭、縁側や湯船など私は日本文化の薫陶に浸りました。しかし観光景勝地としての京都で私は地元の匂いを感じました。観光客が多い清水寺に行くと周りには多くの台湾人がいたので、聞き慣れた台湾訛りに思わず笑顔になりました。

商業都市大阪にやって来ると、台湾の信義区に戻ったかのように感じました。しかし異なる点は大阪には商業ビルとも調和している大阪城や神社等の建築物があることです。体育の授業で大阪城の周りをランニングしている中学生を見ると、彼らの生活が世界文化遺産に溶け込んでいるようで、とて羨ましく感じました。地下鉄の駅にいた慌ただしくしながらも表情がないサラリーマン、心斎橋で地図を片手に興奮している観光客、ホームで両手に買物袋を下げた女性や老人など、昼間の大阪はとて輝いていました。しかし夜になると東通街には若者が奇抜な服を着て道路の入り口で話をしており、楽しみを求めている男性は無料案内所が蔓延る道へと入って行きました。日

本人は一様に謹直で己を律していると言っているものの、それは恐らく日中、外に対してみせる社交的な表情なのでしょう。夜の享楽の時間になると開放的な場面を見ることが出来ます。繁華街の路地には多くのスナックやクラブがあり、そのような歓楽街は恐らく仕事や生活のストレスを解放する場所で、一種現実逃避の言い訳になっているのだと思います。

【日台の差異】

日本の風呂文化は私にとって大きな衝撃でした。台湾では水着を着てみんなと一緒に温泉に入ります。しかし日本式の温泉はまさに一糸まとわぬ姿で一緒に温泉に入るので。今回私は日本でそれを2度経験しました。溪山閣ではルームメイトと一緒に温泉に入りましたが、脱衣所から身体を洗う時までずっと恥ずかしくてバスタオルで体全体を覆っていました。しかし、温泉に浸かると身体が一気にほぐれ、隣に居たNさんやLさんと一緒におしゃべりしたり、ルームメイトともはしゃいだりしました。六甲山YMCAの浴室もとても特別な風景でした。日本の友人たちが自然と服を脱ぎ、身体を洗いながらおしゃべりしている様子はとても特別で不思議でした。「恥ずかしくないの?」「入浴はプライベート」という考えを持っていた私は日本の浴室で再度このカルチャーショックを体験したのです。

しかし旅行とは自己の再発見でもあります。新しい事に対して好奇心を抱くものの試してみたくないという思いが、いざ試してみたらその楽しさが理解でき、もっと試してみたいくなります。恐らく入浴とは日本人にとって一般的な付き合い方であり、裸での交流は日常生活における人間関係の制約や社会に於ける距離感を補うものであるのだと思います。

他に、ビニール袋の使用問題をここに取り上げます。日本ではドラッグストアやコンビニ、土産



こちらは広島平和記念資料館内の店舗で働いているおばあさん。温かく優しく話しかけてくれました。

物店で買物をする際、店員は無料のビニール袋を客に渡します。日数と客数を考えるととても膨大なゴミ処理問題を引き起こします。台湾ではビニール袋は早くから有料化され、消費者が使用する機会は減少しています。私はこの事に対してとても懐疑的な態度でしたが、日本のビニール袋はとても薄く、使用してもすぐに破れてしまうことに気づきました。それでインターネットで資料を調べると日本のビニール袋の多くが燃やしても毒性物質を放出しない種類のものだと知りました。

【感想】

出発前台湾での授業の多くは政治関連のもので、最近の尖閣諸島問題等がメインでしたが、それにより日台中の三角関係の複雑さを少し理解することができました。主催団体の周到的な気遣いに感謝致します。

今回は私にとって初めての日本訪問で、座禅・温泉・茶道・神社参拝・居酒屋体験・関西の学生との交流等初めて外国語に身を置く体験でした。自分の語学能力でのみ相手とコミュニケーションを図らなければならず、その状況が私にもたらした身震いは相当なものでした。しかしそれにより私は日本語検定に合格しようという目標が芽生え

ました。今回のサマーキャンプは私と日本を繋いでくれた架け橋です。それにより、私は日本文化に対してより強い興味を持ちましたし、より深く日本に関して掘り下げたいという多くの動機が生まれました。

最後に再度今回の旅行の手配及び随行をしてくれたNさんとSさん、そして劉団長と交流協会のLさんに感謝します。ありがとうございました。

夢のような充実した日本旅行

国立高雄第一科技大学 応用日本語学科
柯伯翰

今回「2012年日本研究支援サマーキャンプ」に参加できたことをとても光栄に思います。交流協会と政治大学当代日本研究センターが主催するこの活動は先に政治大学で2日間の授業に参加しました。初日は「目下の日台関係の状況」と「日台関係の回顧と展望」に関する授業で、私は現在の日本の政局や日中関係が経済・貿易に於いてお互いに依存している状況などを学びました。また、日本と台湾との関係は中国大陸と比べると明らかに密接であることや尖閣諸島問題に於ける日中関係についても理解しました。最近交流協会によって台湾で実施された調査報告書によると、台湾人は親しみのある国や近い国（アメリカや中国を含む）に日本を選んでいるのです。2日目は「日台関係と日米安保体制」の授業で、日米安保と台湾海峡の安全の歴史について学びました。日台は断交して40年になりますが、台湾という場所に於ける戦略価値と日本の経済大国の本質から見て、台湾海峡の平和と安定は日本の重大な安全戦略利益や両国の緊密な経済関係に影響を及ぼします。それゆえに、私たちは既に「運命共同体」となっているのです。



続いて日本の部分に関してです。この8日間は本当に夢のように素晴らしい旅でした。初日広島空港に降り立った際、歴史と文化が溢れる街だと感じました。空港はデザイン性があり、宿泊した広島リーガロイヤルホテルはとても高級でした。2日目から正式に充実した旅が始まりました。まず広島原爆ドームと平和記念資料館を見学しました。そこでは当時広島が原子爆弾を投下された惨状を学びました。原爆が投下された爆心地ではここは悲劇が起こった場所であり、同時に人類が原子爆弾を開発する上での犠牲の地であることを実感しました。続いて宮島「厳島神社」です。さすが世界文化遺産です。典型的な日本の神社の風貌から荘厳な雰囲気は漂っていました。その後路面電車に乗って八丁堀という繁華街へ行きました。新鮮に感じたのは台湾では見られない道路を走る電車です。その夜は居酒屋で食事をしました。日本のビールはとても濃く、香り高い気がしました。それに飲み放題でした。興味を引いたのは「日本式乾杯」と「台湾式乾杯」が異なることです。日本式乾杯は一口飲めばいいですが、台湾式乾杯は底が見えるまで飲み干すことを言います。ここからも文化的相違点が生み出される面白さを見て取ることが出来ます。

3日目は日本の新幹線に乗る体験をし、姫路へ

と行きました。新幹線の外観は流線型で、内装は台湾の新幹線と大差ありませんでした。しかし走りだすととても穏やかで快適でした。姫路獨協大学との交流で特別だったことは姫路獨協大学は現在私が勉強している高雄第一科技大学と姉妹校であったことです。交流はグループに分けて行われ、各グループそれぞれテーマが与えられ、討論しながら交流して行きます。しかし台湾の学生は準備十分で臨んでいましたが、日本の学生はほとんど準備していなかったように感じます。私たちの日本語は日本の学生の中国語に比べると流暢でした。その後世界遺産である「姫路城」を参観しました。城壁が高く聳え、古代の技術で如何にして石でこんなにも壮観な城壁を作り上げられるのか想像するのも難しく、まさに神業と言えるでしょう。

4日目は阪神淡路大震災の記念館、人と未来の防災センターを見学しました。そこで日本の防災技術と防災意識、地震に対する準備や耐震構造や免震構造をによって被害を最小に押さえる技術を学びました。午後は抹茶の点て方とパフェ作りを体験し、清水寺と八坂神社を歩きました。昼食前に現地の日本式温泉旅館に到着しました。男性は甚平、女性は浴衣を着て夕食を頂きました。嬉しいことに、旅館の女将さんは私たち20人の台湾人に一人一セットの浴衣、甚平をプレゼントしてくれたのです。日本式の温泉は一条まとわず入浴しなければなりません。この習慣はとても特殊です。日本式温泉は身も心も安らぎ、その場を去り難く感じました。

5日目の朝は人力によって船を漕ぐ保津峡川下りに乗船しました。川の流れと人の力によって動力が生み出され、勢い良く前へと進み、山や谷の自然の美しさを感じました。その後世界文化遺産の天龍寺を訪れました。とても静かで、途中には広大な竹林が広がっていました。まるで映画の中から切り取ったかのような美しさで、荘厳さを漂

わせていました。最も印象深かったのは退蔵院の座禅体験です。私たちに座禅の説明をしてくれた住職の話の中で、座禅の本当の目的は集中力をつけ、人間性を養うことだと知りました。正式な座禅は何日も休まず行われますが、私たちはたった15分で限界でした。本当の修行というのは大変なのですね。続いて、その夜に宿泊する場所はただ目を見張るばかりでした。所謂「京町家」で、以前は商人の邸宅でした。日本の別荘のようで、とても高級で、多くの著名人もここを訪れ泊まったことがあるそうです。この夜はとても贅沢で、一生にこんな高級な別荘に泊まれるチャンスがあるなんて、本当に交流協会の細やかな手配に感謝します。

6日目と7日目はこの活動の最後の2日間でしたが、とても素晴らしい2日間でもありました。まず大阪で日台学生会議の日本と台湾の学生と出会い、交流し、クイズラリーを行いました。内容はとても面白く、指定された時間内に指定された場所でグループ全体の写真を撮り、指定された食事を食べるのです。それにより私たちはとても短い時間で大阪の様々な特色ある建物に触れることが出来ました。例えば通天閣、大阪城天守閣などです。また大阪のお好み焼きやたこ焼きを食べることもできました。やはり台湾の味とは全く異なったもので、本当に美味しかったです。一日のクイズラリーとその夜のBBQを終え、私たちは日本の学生とより深く知り合えましたし、日本の学生の温かなもてなしを受けました。翌日、午前中はグループに分かれて日本の神話劇を行いました。みんなで分担し、協力し合い、台詞を考え、小道具を作り、踊りを踊りました。最後の本番までどのグループも各々の趣向を凝らしており、とても素晴らしかったです。その夜は重要な交流協会部長による送別会でした。料理が豪華だけでなく、部長の温かな歓迎に感激していました。内心私は必ず日本に戻ってこようと決意しまし



た。今後日本の学生たちにも台湾に来てもらい、私たちのお返しをさせてもらいたいです。

8日間の充実した日本理解の旅は本当に収穫が多く、日本の文化や生活面に対して一層深い知識を得ることが出来ました。私は応用日本語学科の学生ですが、大学での練習には限りがあります。今回の機会を得て、日本で実際に交流・見学をしてみて、本当に多くのことを学びました。日本は私たちが多くのことを学べる国です。どの方面に於いてもとても進んでおり、生活の質も高いです。今回交流協会が主催するこの活動に参加できたことで、私は考えを改めました。交流協会奨学金を目標に努力し、今後交流協会の奨学金を手にし、日本の大学院で研究することを夢見ています。

2012年晩夏、日本理解の旅

成功大學外国語学部
周宜澄

2000字の論文でこの活動に応募したことが私が交流協会と関わりを持った始まりでした。テーマの決定から始まり、成功大学総合図書館を歩き来しては資料や電子雑誌を探し、最終的に本当にサーマーキャンプに合格した時の喜びは文字では

書き表せません。すぐに台湾新幹線のチケットを予約し、自分の日程を手配しなおしました。日本に行って交流し、日本文化を体験できる喜びと興奮を押さえることはできませんでした。

最初の2日間は政治大学での授業です。最初に知り合ったのは同じグループの柯柏翰、席祖詒、林之婷でした。政治大学に慣れていない私たちは席さんに国際関係センターを案内してもらいました。日本人の先生や劉先生、その他の先生から日本文化関連の研究結果を教えてくださいました。その中で最も印象深かったのはやはり劉先生が私たちに下さった姫路城と広島原爆ドームの紹介です。先生は映像を見せながら私たちに日本語のヒアリングを練習させてくれ、私たちはこの2つの場所の知識を更に完全なものとししました。

9月2日は出発日です。しかし事前に私は何度も行程表を見ていました。私はこれまでに何度か日本を訪れたことはありますし、日本で交流活動に参加することも初めてではありませんでした。関西と広島は今まで訪れたことが無い場所でしたし、何よりこれは交流協会が主催した日本を理解する活動ですから、その日程の背後には十分な意味があるのだと思います。このような期待を抱えて、私たちの7泊8日晩夏交流旅行が始まったのです。

広島空港は私たちの旅行の最初に訪れた場所です。私は密かに資料を調べて、原子爆弾による被害と歴史に関して知識を得ていました。ガイドのSさんの詳しい説明によって、私は更にその不幸な歴史を知ることができました。想像して下さい、当時は私たちが訪問した日のような晴天で、原爆はそこから落ちてきました。爆心地の半径500m以内の死亡率は99%、1km以内の死亡率は90%で、その後原爆の影響で白血病や奇形児などの後遺症を発症した人もいたそうです。どうして何の罪も無い一般市民がこのような惨劇に遭わなければならないのだろうか、と思わず考えてし

まいりました。当時日本の軍国主義はむろん他国に危害を加えるものでした。しかしその報復がなぜ広島と長崎の人たちだったのでしょうか？原爆爆発後に残された原爆ドーム、そして資料館の中に展示してある広島市長が各国政府に宛てた反原爆の長々と書かれた手紙を一通一通見ていると、歴史の采配にはどうしても納得がいきません。

もし広島と長崎への原子爆弾投下が日本の軍国主義、真珠湾攻撃に対する代価であるならば、阪神淡路大震災はどうなのでしょう？2012年に大阪と神戸を旅した私は1995年1月17日にこんなにも大きな自然災害が発生したとは思えませんでした。しかし、同様に地震帯で生まれた台湾人は予測不能な地震の大きな恐怖を体感しています。台湾921大地震の時私は小学生でした。震源地から遠い台北に住んでいましたが、あの晩の天地が揺れ動く様とその後ニュースで流れる崩れ落ちた家々、家族と離散した痛みなどの悲惨な状況は今でもはっきりと覚えています。そして防災センターを参観した時阪神淡路大震災の映像とそれらが結びつき、思わず目を赤くしてしまいました。しかし、防災センターで私たちは日本人が自身の安全のため不断の努力で改築や耐震技術の研鑽に励んでいること、家屋の構造を強くするには2種類あることを知りました。他に液状化現象による建物倒壊を防止する杭や地震救難バッグの準備等とても周到です。彼らが生命や財産の損失を減らすよう努力しているのを見てとても感心しましたし、同時に台湾はこの方面に関して非常に大きな努力を要すると感じました。

この2つの少し重い日程以外に交流協会は多くの日本文化体験の場所を用意してくれていました。京都では初めて全て豆腐を使った料理を食べました。事前に京都は水質が良く、京豆腐はとても有名であると聞いていましたので、今回その美味しく、柔らかい豆腐料理を堪能できてとても嬉しく思いました。その中でもごまダレがかかって



いた前菜の豆腐は忘れられません。台湾にも日本料理店は多いですが、このような伝統的な料理は京都でないと食べられません。ここまで書いて、私は京都に戻り、古都の雰囲気の中、あの繊細で美味しい豆腐料理を食べたくなりました！

京都は私にとって日本の代表と言ってもいいでしょう。京都だから私は交流協会への論文を書いたのです。それにより本活動に参加することができ、また京都の鴨川べりで川床料理を楽しむことができ、にぎやかな市の中心部から道を一本過ると一瞬にして300年前から存在する花街、花見小路へと足を踏み入れることができたのです。舞妓さんや芸妓さんの華やかな和服姿。伝統的な髪型と化粧。一人だったり、お客さんに付き添ったり。提灯の灯りの下を歩いている姿を望めば、まるで時空を超えたようでした。彼女たちと一緒に写真を撮りたかったのですが、デジカメを持っていた私はその雰囲気に躊躇させられ、私は友達と一緒に静かに道の端で立っていました。一人また一人と通り過ぎる和服の影に私たちはどれが舞妓さんでどれが芸妓さんかを声を潜めて話をしたりしながら、その特別な夜は過ぎていきました。その後町家に戻る途中で小さな問題が発生しました。私たちは道に迷ったのです。私は何度も海外に出ています、今まで道に迷ったことはありません

でした。もしかすると、京都が醸し出す人を酔わせるような雰囲気にも飲まれたのかもしれませんが。暦が2012と示されている場所で地図を見ていましたが、私はそんなに早く自分の位置と方向を探し当てなくても、と願っていました。時代を超えた京都をゆっくりと歩いてきたかったです……。

他に深く日本文化を体験できたのは溪山閣という温泉旅館でしょう。浴衣と甚平を着ると私たちは人が変わったようでした。こちらの会席料理は至極の美味しさで、牛肉にはさしが入っており、まるで日本のテレビ番組で見るように口に入れると溶けてしまうようでした。食材もとても新鮮で、刺身はワサビや醤油が必要ないくらいに美味しかったです。しかしその中で一番新鮮に感じたものはやはり漬物です。それに小鉢にはカボチャと野菜が入っており、特別な味でした。台湾にある日本料理店ではほとんど見かけないものばかりでしたので、私はこの機会を利用してたくさん食べました。そして溪山閣で一番素晴らしかったことは浴衣を着られたことです。日本の伝統衣服を着られてとても嬉しかったです。日本式の部屋に座り精緻な料理を堪能し、その後温泉に浸かり、最後には大きな畳の部屋で就寝します。まるでテレビに出て来る温泉旅行のようで、忘れられない経験となりました。

今回は多くの寺院拝観もその日程に含まれていました。日本の寺院と台湾の寺院の差はとても大きいものでした。日本の寺院は作庭をとっても重視しています。枯山水の印象はとても深く、観光客が多いにも関わらず静けさが保たれていました。寺院後方の借景と竹林はとても優美で、歴史的要素も加わり、宗教目的以外で、ここが多くの観光客に選ばれていることに納得しました。そして私たちは幸運にも座禅体験ができました。私は以前日本のドラマの中で高校生が合宿中に行っているのを見ていたため、大まかな状況は知ってしまし

たが、今回住職の解説を聞いてよりその原則と意義が理解できました。そして長年仏法を研鑽している人の心に対して敬意が生まれました。座禅が終わり、私は「打たれる」経験をしました。それにより精神集中の助けと励ましになり、完全な形で座禅をすることができましたが、とても痛かったです！他に巖島神社特有の鳥居は印象深かったです。特に宮島の大鳥居は満潮時には水に浮いているようで、この世のものではない美しさがありました。鳥居を眺めていると平清盛が船で鳥居をくぐり神社に参拝している様子が脳に浮かびます。帰る頃には少し雨が振り出し、その美しさに磨きをかけていました。

日台の交流方面に関しては2つの日程が組まれていました。1つめは姫路獨協大学でのグループ毎の討論です。私たちのグループは携帯電話に関して話し合いました。現在スマートフォンが普及していますが、討論をしていると日本人と台湾人で好むゲームやアプリに違いがあることが分かりました。しかしその後私たちのグループは討論のテーマが横道にそれて行き、次第にテーマから遠ざかり、日本の番組や芸能人などが話題となりました。2つ目の交流は大阪で日本各地から来た大学生と一緒にいった活動と六甲山への旅行でした。私はこの活動がとても好きになりました。5



時間という時間でしたが大阪の学生たちはとても優しく私たちを遊びに連れて行ってくれました。それに多くの人が私が成功大学から来たと聞くと、成功大学で活動に参加したことがある、と話してくれました。それに私たちには共通の友達がいたのです！このようにその活動中ずっと話をし、地下鉄や11系統のバスに乗り、私たちは通天閣に上り、大阪城、心齋橋、道頓堀、梅田を訪れました。多少残念だったことは時間が短かったことで、あまり詳しく参観することはできず、写真を撮ったらすぐに次の場所へと移動してしまいました。その夜はみんなで一緒に六甲山へ行きました。奈良から来たKさんは私たち六甲山YMCA121号室の室長でした！彼女はとても優しい関西の女の子で、すぐにみんなで打ち解け合うことができました。夕食のBBQの時には日本各地から来た人たちとたくさん知り合うことができました。Yさんは台湾に8回も言ったことがあり、今後政治大学に交換留学するそうです。私は日本語で一人の大阪大学の大学院生とずっと話していたのですが、しばらくして振り返ると彼が別の人と中国語で話していたのです。私は思わず「中国語上手だね！」と言ったら、「だって台湾人ですから」といわれ、涙が出るほど可笑しかったです。交流協会がこんなにも豪華なBBQを準備してくれていたことに感謝します。牛肉はさしが入っていてとても美味しく、みんなで食べながら、遊び、そして写真を撮りました。知らない間に日本語が進歩したようでした。少し肌寒い六甲山はみんなの楽しい思い出の場所となりました。

8日間は長いと言えば長いし、短いと言えば短い日程です。一分一秒が過ぎ去っていると考えると、自然と寝るのが遅くなり、朝起きるのが早くなりました。毎晩ホテル付近を歩き回り、朝には昇ってくる太陽を拝みました。全部で35時間も眠れていない私は旅人として全てのことを把握し、日本を目の底と記憶の中に焼き付けようと

しました。人生とはまるでエスカレーターのように、例えば自分が前に進みたくなくても、時間の経過とともに必然的に動いてしまいます。このように日本での最後の夜が訪れました。東北料理を提供する日本料理店で、私たちは東京から来られた交流協会部長とお会いしました。私たちに対して宴会の挨拶をして頂いただけでなく、机をまわって私たちと話をして下さいました。心の中には今回この活動に参加できた感謝の気持ちでいっぱいでした。いつか日本で勉強できるよう努力しようと思います。Nさん、Sさん、Lさん、交流協会の皆さん、日本の全て、暫くお別れですが、私は必ず戻ってきます！

旅行の意義—日本・関西

政治大学財政学部

李旻潔

一・台湾部分

選ばれてから説明会に参加するまでの期間、今回の日程に関しては全くわからず、どのように出国して交流をするのか、どのような準備をすれば良いのかも全くわかりませんでした。説明会の当日になって、交流協会を訪れ、ようやく今回の日程がとても厳粛なものであることがわかりました。選ばれた学生は各地から来た精鋭で、私は少し気後れを感じました。台湾での2日間の日程は主に日本に関して研究を行っている教授たちから日本の政府や日台関係の紹介がありました。しかし教授たちが話してくれたそれらの知識は実際の訪日ではほとんど利用することは無く、劉教授が詳細に話してくれた8日間の日程に関する補助的知識は多くの場所で使うことができました。この2日間でおおよそ知り合った同じ団員たちはやはりとてもすごい人たちでしたが、とても親しみやすい人たちで、溝は感じず、私はこの8日間の共

同生活に一層期待が持てました。

二・日本部分

(1) 広島

20時過ぎに広島空港に到着しました。成田空港と異なることは周囲が一戸建ての家屋と田畑が中心だったことで、飛行機から見た感覚ではまるで田舎に来たようで、関西に関して好奇心が湧き上がってきました。バスに乗り、初めてこの8日間私たちを案内してくれるSさんとNさんにお会いしました。Sさんの話し振りを聞いていると、とても面白い人だと分かりました。そして日本人が学ぶ中国語は大陸の話し方が主流であることを初めて知りました。ですからやはり最初は聞き慣れませんでした。ホテルについて、私たちが宿泊するホテルが広島でも一二を争う高級ホテルだと知りました。外観はとても気品があり、どの角度からでも窓の外には広島城を見ることが出来ました。荷物を置き、私たちは付近の商店街を歩いてみました。日本の店は21時頃にはほぼ閉まっていますが、少数の遅くまで開いているレストランを数件探し当てました。日本に到着した初日にどうして何もせずに過ごせるのでしょうか！私たちは日本で有名なラーメン店、一蘭を選びました。この時私たちは事前準備の重要性を知りました。なぜなら団員の中に出国前に既に近くの商店街や開いているお店を調べて来ている人がおり、それにより私たちは大きく時間を省けたのです。翌日、数人の団員と一緒に近くの広島城を散歩することを約束しました。広島城は1599年に完成しました。周囲を堀で覆われた城で、以前は軍事目的で作られたことは一目瞭然でした。広島城の敷地内には護国神社があり、私たちがこの旅行で初めて遭遇した神社です。記念としてお守りを購入しました。その後の行程は原爆ドームと平和記念資料館です。Sさんが解説する第二次世界大戦中の核爆弾爆発時の状況を聞くと鳥肌が立つほど恐

ろしく感じました。地面の表面温度が3000度に達し、更に強風と強震がそれに加わりました。そして最終的に広島の「好天」が広島に原子爆弾を落とされる最終地点となる決め手となったのです。何か皮肉めいたものを感じました。簡潔に言えば、広島は大都市だとあまり感じない都市です。歩調は比較的ゆっくりで、東京と比べると私はこのような速度の方が好きです。

(2) 宮島

高速船に乗って外界と隔絶された宮島にやってきました。まるで高雄の旗津か淡水の八里のような感覚でした。ここで有名なものは水上に立つ鳥居で、本当に美しかったです！宮島は今回の訪問先で私が一番好きだったと言ってもいいと思います。なぜなら島に到着するとすぐにあちこちに人懐っこい鹿が闊歩しているのです。本当に印象深かったです！他に宮島で最も有名なお土産はもみじ饅頭で、一口食べると好きになってしまいました！ですから、何箱も持って帰り友達に分けました。宮島で私たちは厳島神社を参拝しました。そのお守りの裏には鹿、または鳥居ともみじの絵が描かれており、とてもその土地柄を表していました。その他宮島の景色は美しく、参観にはとてもいい場所です！



(3) 姫路

3日目は新幹線に乗って姫路へ行きました。ここでは姫路獨協大学の学生と交流しましたが、当初の想像とは大幅に異なっていました。私たちと同じグループの学生はあまり話をしたがらず、日本語ばかりを話しています。名簿には彼らは外国語学部で中国語を学んだことがあると書いてあるの입니다。しかし彼らはあまり中国語と英語が得意でないようで、代わりに社会人学生の方が真先に発言し、できるだけ中国語でコミュニケーションを図ってくれました。そうでなければ、姫路獨協大学の学生は今回の交流に対して私たちのように重視はしていないのではないだろうか、とさえ思わざるを得ません。どうやら彼らは当日に討論のテーマを知ったようでしたし、服装もカジュアルでした。それに比べて私たちは交流協会から再三これは厳粛な活動で、先に準備資料と小さなプレゼントや名刺を用意しておくように言われました。しかしこれは恐らく大学方面の問題で、情報の伝達がうまくいっていなかったのだと思います。日本の学生はとても礼節を重んじると信じています。交流後、姫路城の見学をしました。ちょうど数十年に一度の改修時期に遭遇しました。姫路城修復のため周りを保護する建物で覆うことで天気の影響を受けずいられるのです。台湾の状況を考えると、このような旧跡の補修というのは比較的少なく、それにこんなにも大掛かりなものではありません！その後孫文記念館(移情閣)へ行きました。孫文は日本でも国父級の扱いを受けているなんて思いもしませんでした。移情閣を實際目の当たりにするととても驚かされました。それは建築の美だけではなく、周囲の風景が更に美しいのです！

(4) 神戸

その夜神戸モザイク広場を訪れました。ここから神戸港を眺められるのですが、香港のビクトリアハーバーとは異なった風景でしたが、大いに視



界を開かされました。夜のランプが港周辺の建物を更に美しくしていました。翌日人と未来の防災センターへ行き、1995年に起こった阪神淡路大震災に関連する写真や映像を見ました。大自然の力は予測不可能ですが、私たちは十分な準備をすることができるのです。参観終了後、私たち台湾は日本と比べるとあまり災害の事前準備に関する方面を重視していないことを反省しました。地震帯に身を置いているのですから、台湾はこの方面に対して大きな発展の空間が存在しており、これは命に関わる問題ですから、政府にはより重視してもらいたいと思います。

(5) 京都

京都で最初に訪れた神社は清水寺です。京都で最も古い神社で、険しい崖の上に立ち、上から望める景色はとても美しかったです。他に天龍寺と龍安寺に行きましたが、それほど壮観なものではありませんでした。京都で私たちは保津峡川下り船に乗りました。これはとても特別な体験でした。船をただ浮かべているような感じですが、とても安全で、途中の風景は山や川があり、まるで世間から隔絶された桃源郷に身を置いているようでした。そして半分ほど下ると物を売る船が私たちと並走して、とても珍しく感じました。午後は退蔵院で座禅体験をしましたがとても貴重な体験

でした。住職は眠くなったりした際の本の板を打ち付ける様子を見せてくれましたが、その時の力の入れ方にとっても驚かされました！ですから私たちは座禅をしている際には集中を怠ることはしませんでした！京都の最初の夜は温泉旅館で、女将さんは私たち一人一人に浴衣をプレゼントしてくれて、とても嬉しかったです！翌日の夜は町家に泊まりました。それは一棟の家を貸出し旅館にしているようでした。初めてこんなにも多くの人と一緒に泊まるので、とても特別な感じがしました。まるで日本の家にいるかのようで、とても温かく、個人旅行では体験しにくい部分でした。

(6) 大阪

大阪という都市はとてにぎやかでした。そして宮島に続き好きになった場所でした！この人は優しく、私たちは夜に街へ繰り出しラーメンを食べに言った時も日本人が私たちに話しかけてくれました。まるで個人旅行をしているような感覚です！大阪では日台学生会議の学生とクイズラリーをしました。数日前の姫路獨協大学の学生とは異なり、どの学生も積極的に活動に参加し、また中国語や英語、日本語を使ってできるだけコミュニケーションを図ろうとしてくれました。夜には一緒に六甲山でBBQを行いました。この行程のおかげで私たちは日本の学生と近づくことができました。翌日の午前中は日本の神話の劇を行い、午後は六甲山牧場を見学し、この2日間は日程の中で最も忘れ難い部分となりました。私たちと日台学生会議の学生は親友になり、お互いの連絡先を交換しました。なぜなら今後彼らが台湾に来たら一緒に遊びに行く約束をしたからです！

三・感想

8日間の旅に参加でき本当に楽しかったです。日本の多くの文化（茶道・座禅・神社参拝・浴衣・温泉等）を体験し、本場の美味しい日本食（刺身・土瓶蒸し・ビール・トンカツ・ラーメン・たこ焼

き・お好み焼き等）を堪能しました。今回の旅行で私は日本を更に好きになりました。今後日本で勉強したいという思いが湧き上がってきました。今後数年日本語を勉強し、留学の奨学金を申請し、再度日本と相見たいです。

一期一会

静宜大学日本文学学科
曾郁棋

今回のサマーキャンプに参加できたことは本当に嬉しかったです。なぜならこれまで日本に対する認識は教科書の内容に限られていました。日本という国をちゃんと理解する機会がなかったのです。しかしこの1週間の活動を経て私は改めて日本を好きになりました。

まず、私たちは政治大学で2日間の集中講義を受けました。ここで習ったことと私たちの訪日の日程に大きな関連性はありませんでしたが、私にとってはとても有意義なものでした。先生たちは私たちに過去の日台間の歴史や親密な日台関係、更には現在の日台情勢に関して話して下さいました。最近話題にあがる尖閣諸島問題に関しても、先生たちはそれを避けることなく私たちと討論しました。このような授業は私に多くのことを考えさせてくれます。同様に島国である台湾は日本と同じ問題を抱えています。中国の強大な圧力の下、主権問題は一触即発の状態にあります。どのように処理をすればよいのか、みんなの関心が向いています。しかしこのような総合的に日本を理解できる授業はほとんどありません。最も新鮮だったことは異なった学部から来た学生が集合したことです。どの学生も違った角度から日本を認識しています。日本語学科と言えども日本を理解しているとは限りません。先生の質問により、私たちは各々の意見を発表しました。それにより、

今回の旅行で最も重要な目的は恐らく日本文化の交流だと思いますが、他に人との心の交流も軽視してはいけないのだと感じました。

今回初めて日本にきました。ですからこの短い一週間の滞在は毎日が探検しているように楽しく、食べるもの、見るもの、遊ぶもの、どれもが台湾と異なっていました。以下には各異なった方面から私が受けた影響を説明しようと思います。まずは当然「食文化」です。今回の旅行で私は日本の様々な豪華で精緻な料理を頂きました。しかしその中でも私が最も忘れられないのは京都で食べた湯葉料理です。最初の料理から最後の料理まで全て湯葉で作られています。以前に日本の地理の授業で京都では湯葉が有名であることは知っていましたがまさかこんなにも多種多様に料理に使われる何て思いもしませんでした。冗談でこれは湯葉地獄だ、なんて言う人もいましたが、本当に一生忘れられません。もう一つの新鮮な体験は日本の居酒屋です。日本のドラマの中でよく出て来る場面が本当に私の人生で演じられているのです。みんな止まることなく様々な種類のお酒を飲んでいました。サワー、焼酎、日本酒などです。自分でお酒を注ごうとしている人がいましたが、Nさんに止められました。日本では自分でお酒を注がないそうです。なぜならこれは相手があなたのコップが空になったことに気づいておらず、相手に対してとても失礼であることを意味しているそうです。それを聞いて私はとても驚かされました。台湾では当然の行為が日本では180度変わってしまうのです。日本人の堅苦しく、慎重な一面を見ました。まさにカルチャーショックはこのような小さな場所から始まったのです。

続いては日本の観光名所に関してです。私が一番好きだったのは保津川下りです。水の流れに沿って上流から下流へ流れて行き、日本の自然の風景を眺めました。エンジンの雑音はなく、聞こえるのは船頭さんの船を漕ぐ音とサラサラという

水音だけです。まるで都市の束縛を離れ、この木々の中で世間と隔絶した生活をしているかのようでした。このような美しい景色をみて、日本人の自然の生態保護に対する力の入れようには驚嘆せざるをえません。観光と生態の間で両者がバランスをとった発展のポイントを探し当てたのです。そして私たちの旅行では3箇所の世界文化遺産を訪れました。それらはどれも政府が積極的に保護しており、最も美しい様子を人々に見せていました。京都はこの旅行で私が最も期待していた都市の一つです。テレビ番組ではよく京都の古き良き宗教建築や神秘的な舞妓さんの紹介が行われていますが、自分で訪れてみて、それが紛れもないものだと分かりました。観光客は絶えず、人力車は人の群れの中を走って行きます。ゆっくりと街を歩き、Sさんの歴史のいわれを聞いていると、その場に身を置いているような感覚になりました。清水寺の地主神社も有名な観光スポットの一つです。私たちは俗世間から逃れられず、恋愛みくじを引き、お守りを買いました。おみくじはとても的を得ていました。同時に日本人の商業的思考に感心しました。どのお寺でもその場所の特別なお守りがありました。それを見るとどうにもお金を出してしまうのです。

この旅行中最も印象深い文化体験は恐らく温泉



体験です。温泉に入る前、みんなとても緊張していました。これまで他人に裸を見られることなんてありませんでした。私たちは目を閉じて入ると約束しました。しかし本当に解放されたら、みんな恥ずかしがるどころか、お互いのプライベートな話まで話し始めたのです。日本人も全く他人を気にすることなくのんびりと温泉を楽しんでいました。本当に理解しきれない民族です。私にとって日本人はとても細かい点にまで気を使う民族だと思っています。常に再三確認してから話を始めますし、礼節を疎かにすることはありません。それは一方で慎重すぎるとも言えます。しかし温泉文化では大胆な観念を持っています。こんなにも大きな文化の違いが私という今回初めて体験した台湾人に襲いかかってきたのです。さらに浴衣体験は本当に女の子たちを狂喜させました。まさか1セットの浴衣をもらえるなんて思いもせず、驚喜指数は100%です。ホテルのスタッフが着せてくれた時、ずっと優しく、きつくないか聞いてくれました。しかし美しさのためみんな笑顔で大丈夫です、と答えていました。しかし座って食事をする時こそ最大の難関でした。正座して背筋を伸ばします。優雅に食事をしなければなりません。ただ一言言えるのは、日本人になることは簡単なことじゃない、ということだけです。

この旅行で、私は多くの日本の大学生と交流し、台湾が好きで日本人がたくさんいることを知りました。芸能人、グルメ、風景のこと等、みんなよく知っていました。反対に台湾人もみんなとても日本が好きです。ですから私たちの交流はとても楽しいものになり、お互いの国を同じくらい大好きになりました。特にチーム毎に日本人と劇をしたとき、みんな日本語、中国語、英語を織り交ぜて話しました。一緒に劇の内容や演出などを話し合い、一緒に一つのことに向かって努力したことで、無意識にお互いの距離が近くなりました。非常に忘れ難い出来事でした。日本での最後の夜、



日本人学生は私たちをカラオケに連れて行ってくれました。こんな夢のような体験ができるなんて思っても見ませんでした。日本のカラオケルームはとても小さいですが、選曲も小さなタッチパネルで行い、なにもかもとても新鮮でした。日本の女性が歌う姿はとても可愛く、ミュージックビデオの動作を真似していました。私たちも数曲の中国語の歌を披露しました。しかし楽しい時間はいつもとても短いもので、すぐに終了し、最後はとも分かれ難く感じました。

交流協会と当代日本研究センターが共同でこの活動を主催してくれたことに感謝します。私にとって、初めて日本に来て、こんなにも多様な一面を見ることが出来、こんなにも多くの優しい日本人と知り合え、この上もなく幸せでした。将来、多くの人に台湾を理解してもらいたいと思います。そのために私は日本語をもっと頑張り、いつの日か日台関係のために尽力したいと思います。

理解と交流

国立台湾大学 社会科学院経済学部
詹凱傑

今回の活動は台湾と日本の両方を含んでいました。まず先に台湾での2日間に及ぶ授業に対する

感想を、その後日本での理解と交流に関して比較的長く記そうと思います。政治大学国際関係センターでI教授は日本政治の現状を鋭く分析されました。それにより私はその分野に対しての知識を大幅に増やせただけでなく、多くの驚くべき台湾との相違点を知ることができました。その中で最も考えさせられた点は日本政治の「地方が中央を囲む」情勢でした。中央政府で総合的に判断し、国民が未だに満足していない政策を打ち出した際、地方の政治スターがそれを持ち出し、国民からの賛同を得るのです。尖閣諸島購入の東京都知事石原慎太郎や「日本維新の会」の大阪市長橋下徹がその良い例です。特に后者である、明瞭な態度で臨む第三勢力は民主党よりも高い支持を集めると同時に、二大政党の議員すら加入させるという魅力を持っています。歴史は常に示し続けています、経済危機と国家危機とは往々にして互いに支えあうものなのだ。第一次世界大戦後ヨーロッパの経済の惨状はヒトラーの台頭を促しました。中国大躍進は期待ほどでなかったために、政府は珍宝島事件を利用して国民の視点をそちらに逸らしたのです。様々な領土問題と不景気が交錯する現在、日本はアジア最先端国家として、その選択はアジア情勢に影響を及ぼすものであることは間違いありません。



以下は日本部分の感想です。私の貧弱な文才ではこのサマーキャンプが私にもたらした充実感や心の揺さぶり、感動を表現することは到底不可能です。サマーキャンプによって私の視界は大きく開かれました。そして知識を増やし、日本という国や民族に対する認識を変えてくれました。以下は2つの部分に分けて、湧き上る感動をどうにか文字に置き換えました。所謂理解とは何か、なぜ理解するか、を中心とした「理解」の部分と日本人学生との交流を通して感じた「交流」部分の2つです。

子曰く「学びて思わざれば則ち罔し、思いて学ばざれば則ち殆し」、という言葉があります。ただ単に、文字を覚え、日本のドラマに狂い、景色を撮る、それは所謂「罔い」ということ。「日本式管理」「武士道精神」を空談し、その文化の多面性を顧みないこと、それは則ち「殆い」ということです。今回の日本旅行で私は次のことに気づきました。日本人は文句を言うこともなく、交通も整然としており、ホテルの部屋には掃除をしたスタッフの名前が必ず残されているのです。集団の結束力による相互信頼が無ければ、このようなレベルにまで達しない気がします。京都では多くの寺社仏閣を訪問し、茶道と座禅を体験したことで、日本人が心の中に求める富んだ変化と安寧を知ることが出来ました。日本の戦災や災害の遺跡を訪れ、未然に防ぐ、という展望を持った国民性に驚かされました。広島での平和記念資料館では敵国を無情だと責めることもなく、むしろ親愛の情を持たせることにより戦争でお互いを憎み合う恐怖を際立たせていました。阪神淡路大震災の防災センターでは政府の無能や復興の遅延を責めることなく、一歩進んだ減災に関する技術を発展させようとしていました。その他、日本ではサラリーマンがほぼ同じスーツ姿をしていたことや、物作りの精巧さなど、私にとって驚嘆余あるもので、多くを考えさせられました。この旅行での体感した文

化的な身震いは言葉で言い表しきることはできません。

これら文化領域における考えで、私は一つの結論に達しました。台湾は日本を必要としているだけでなく、より深いレベルで日本を理解する必要があるということです。台湾にとってなぜ日本を理解する必要があるかという、一般的には日台の政治や歴史、経済関係などの密接さという回答がすぐに出されると思いますが、私はそれらの回答はより深く掘り下げられると思っています。日本はもちろん全てに於いて完璧だということはありませんし、一方で特異な民族性を持っています。しかし民族性という限定的な物事以外に於いて、例えば経営方法等、台湾は学ぶべき価値があります。例を挙げると、この旅行で私は日本の文化の保護に関して見習うべきだと感じました。もちろん台湾にも早くから保護方面の法令がありますが、日本では更にそれらが活かされ、国家の旧跡を保護しているのです。以下に2つの例を挙げます。その一つは姫路城です。現在姫路城は「平成の大修理」によって外観を望むことは出来ず、旅行客としては興味を削がれてしまいます。当然入場料も安くすべきだと考えていました。しかし、管理者は逆に修理の機会を利用し、エレベーターを設置し「天空の白鷺」という姫路城を見下ろすような施設を旅行客に提供しています。また、期間限定の「姫路お隠れバーガー」なども売られていました。2つ目に寺社です。各寺社は歴史的背景や宗派が異なるにも関わらず、どこも売り場を設置して、お守りやお札などを販売していますし、更には近くの商業地域をも活性化させています。寺院の中には座禅や抹茶体験等も提供している場所もあります。

各地訪問以外に、日本の大学生との交流はサマーキャンプの重要な活動です。私の日本語能力は高くありませんが、日本人学生はとても我慢強くゆっくりと私に話しかけてくれました。また多



くの人が中国語が流暢で、私に通訳をしてくれました。討論を経て私は初めて中国語にも文法があり、発音はとても困難なものなのだと知りました。他にも台湾の芸能人である羅志祥、王心凌や飛輪海などは日本でも高い知名度を得ていることを知りました。日本の学生は親切なだけでなく、日台関係の深さと厚さを知っていました。多くが台湾を訪れたことがあり、多い人では8度も訪台したことがあるそうです。彼らの笑顔から感じる温かさ、品性から感じる誠実さはこの日本旅行で最も美しく、最も忘れ難い風景の一つです。

今回の得難い経験に対して、交流協会にはとても感謝しています。まだまだ多くの見聞や感想がありますが、たった2000字では書ききれません。今回のサマーキャンプを経て、多くの学生が日本に対して素晴らしい印象を持ったと思います。また同時に留学を通して更に日本を理解したいという思いが芽生えたと思います。私自身も例外ではありません。台湾と日本の距離は遠くありません。まさに「あなたの家の前の水が私の家の前を流れる」というもので、各方面に於いてとても密に交流が行われています。しかし、もし言語が通じなければ「たった一筋の川にしか隔てられていないのに、言葉を交わせずずっと見つめているばかり」という状況になりかねません。大阪大学の

ある女子学生に尖閣諸島問題と沖縄米軍駐留問題に関して尋ねてみました。私は心の中に既に自分の答えがありました。言語の隔たりによってそれはスルーされ、とても残念でした。これも私がこの旅行で感じたことですが、日本語の勉強に専念せず、中国語・英語から日本を理解しようとしてもダメだということです。送別会で交流協会の総務部長がおっしゃった日本語をしっかりと学んで下さい、という約束を私は将来必ず守ります。

台湾は一つの島です。外の世界の人たちとコミュニケーションを取りたいという欲求に満ちています。そう言ったものの、そのチャンスには限りがあります。本サマーキャンプは円満に終了しました。それは同時に理解へ続く道が開けたことを意味します。日本の風景のすばらしさ、古刹の美、城郭の勇壮さ、人々の勤勉さ、学生の笑顔、どれもが団員たちの心の中に刻まれており、将来日台関係を促進させる原動力に昇華すると思います。

8日間のシンデレラ

政治大学 情報管理学部
陳韋如

パソコンの前に座っていると、一体どこから書き始めようかわからなくなりました。この驚きと喜びに溢れた8日間では初めて味わう数多くの興奮と感動があり、それはまるで8日間だけのシンデレラになったかのようです。信じられないほどの驚嘆を感じた旅は終わりの時が訪れましたが、多くの思い出を持って現実へと戻ってきました。この短い8日間は私を成長させてくれただけでなく、もしかしたら私の未来をも変えるかもしれません。

最初Lさんから送られて来た合格通知書を受け取っても、もともと合格者番号が張り出される

だけだと思っていたので、まさか本物の合格通知書だなんて思いもしませんでした。たった20名の枠しかないのに、私はそれに合格したのです。嬉しいという言葉以外にはありません。私は幸運だったなんて言えません。なぜなら私も多くの労力を費やし日本という国を認識、研究して来たからです。ですから今回の活動はその期待に答えようと思います。

その他、交流協会は手厚く、台湾での説明会と出発前の2日間の集中講義を予定してくれていました。それにより、私は日本へ行く前に準備ができました。説明会当日、先に各々の大学から来た学生と知りあいました。そして日程の説明があり、それにより私たちは事前の準備ができました。政治大学国際関係センターでは3人の先生が授業をされました。日本に行った時直接関係するとは限りませんが、私たちは現在の台湾と日本との関係について一層詳しく理解でき、この授業を受けたことによって世界観が広がりました。その中でここ最近の日台関係の重要部分である尖閣領土問題がありました。これは政治問題に属し、厳粛な雰囲気になりましたが、台湾の大学生である私たちはこの議論の結果がどうあれ、国際的なニュースに関心を寄せるべきであり、台湾、日本、そして中国間の領土問題の原因とその影響を知ることができました。この2日間の授業は確実に私たちが日台関係の背景的知識を得る助けになりました。

日本、関西の8日間の旅行は日程表の細かな点からもNさんのもてなしと心配りある手配が見て取れます。各種日本の公共交通機関を使い、各種多様な日本料理を食べ、刺激的な船に乗り、座禅、和服と温泉の体験、抹茶の点て方体験とパフェ作り、全てが初めての体験で、私たちは自ら日本の伝統文化を体感できました。Sさんの豊富な解説で私たちは広島、神戸、京都、大阪の各地でその場所を深く理解できました。もちろん、往復の

飛行機を除くと短い6日間しかなく、それで関西の幾つかの地域はもちろん、日本全体なんて認識するには全く時間が足りないことはわかっています。しかし、少なくとも私たちはこの旅行中は一時をも無駄にすることなく理解に努めました。夜にはホテルに戻ってから夜更けの街に繰り出し、朝は太陽と共に起き、付近を散策しました。見終わらなかった場所は・・・次回の日本旅行に取っておきます！

他に、「日本理解サマーキャンプ」が特別だった点は2度の日本の大学生と交流の機会があったことです。一度目は姫路獨協大学の中国語を勉強したことがある学生と一緒に、グループに分かれて各々のテーマに関して討論を行いました。私たちのグループは日台の漫画に関してです。台湾の漫画は比較的簡素な路線を行っていて、日本は華麗で複雑な方向に行っています。しかし流行の度合いに話が及んだ際、一人の日本側学生が台湾のコンビニで漫画を探した際日本の漫画しかなく、台湾の漫画はなかったことを話してくれました。このことから日本が台湾よりも漫画文化の程度を重視していることがわかります。もう1つは日台学生会議の学生と1泊2日の合宿活動です。時間は長くありませんでしたが、チーム毎のクイズラリー、BBQによって多くの日本の学生と台湾の留学生と知り合うことが出来ました。相互交流によって多くの考えを得ましたし、文化的な違いを感じることもできました。初めて簡単な日本語で日本人と会話しました。それが自信となり、日本語をマスターしたいという思いが芽生えました！

今回の日程で、私も日本の温泉文化を体験しました。以前小学生の時に日本へ来て一度体験したことがあります。しかし当時は恥ずかしさとお湯の熱さで数分ですぐに出てしまいました。今回みんなの推薦もあり、例え恥ずかしくても我慢して正式な日本式温泉を堪能しよう、と決めました。数人の友達と一緒に温泉に入りながらおしゃべり

をしました。お互い裸で向き合った後のおしゃべりはとても大胆になりました。恐らく日本人が温泉に入るのはその気持ちよさだけではなく、何事も隠さない公明正大な感覚を享受しているからなのかもしれません。

今回私が養った最も重要な習慣、それは「時間厳守」ということです。旅行前からずっと日本人は時間を守るという概念を重視する、と言われていました。一般的には約束の時間の5分前には到着しているそうです。なぜなら約束した時間こそが出発の時間だからです！ですから私たちも時間に余裕を持たせ、ちょうどに、もしくは早めに到着するようにしました。台湾にいたとしても時間を厳守する習慣というのは養う必要があると考えます。

その他、私が印象深かったことは日本のサービス業です。レストランであろうと、服屋であろうと、コンビニであろうと、接客する店員は顔に笑みを浮かべ、とても礼儀正しくお客と接したり、レジを打ったりしていました。レストランでは90度のお辞儀をし、顧客にとっても丁寧に扱われているという感覚を抱かせてくれます。まるで家に





帰ったかのような温かさで、私たちも自然と笑みを浮かべ頭を下げて対応するようになりました。彼らのサービスが良ければ顧客は再訪したいと感じます。それは台湾の西堤ステーキ館と同様で、最も人の話題にのぼることはサービスの部分です。これが彼らがサービス業で成功した主要な要因の一つだと考えます。

実は今回の活動は私にとって、一つの重要な転換点となりました。この活動により私は日本を好きになり、もっと日本との交流活動に参加したいと考えるようになりました。そして私は真面目に日本語を勉強し、日本への交換留学に応募してみ

ようかと思い始めました。今回団を率いて下さった劉冠効先生はこうおっしゃいました。「日本は本当に行く価値のある国です」と。今の私はその意見に更に賛同できます。日本にはまだまだ多くの勉強すべき点がある場所であり、時間をかけてゆっくりと理解する必要があります。私は現在目標が一つ増えました！

多くの違った活動に参加することで多くのことが学べますが、今回の経験は多くの気のあった仲間と出会えただけでなく、台湾と日本とが民間的な方法で多くの交流を行い、私たちと日本との外交はそんなに難しいものではないのだと感じました。たとえ台湾に戻っても、私は日本と連絡を取り続けたいと思いますし、台湾という宝の島の美しさを彼らにも紹介したいと思います。視野をまず日本へと広げ、その後全世界へと広げたいです。そうすることで全く違った観点から違った台湾を見ることが出来ると信じています。

今回の「日本理解サマーキャンプ」は私の1つ目の目標でした。今後何かのチャンスがあれば私は努力してそれを勝ち取りに行きます。そしてこれからも台湾の北に位置する独特の歴史と文化を持つ国——日本を探索して行きます。